

# セドナの箱

オーロラの下の  
シャマンと民話の世界から

2004.2.7[土]—3.28[日]

開館時間：9:30-16:30 休館日：月曜日

会場：当館特別展示室

観覧無料



主催：北海道立北方民族博物館

協力：資料館ジャッカ・ドフニ、津曲敏郎氏、呉人恵氏、渡辺己氏

齋藤君子氏、宮岡伯人氏、風間伸次郎氏、かりん舎、小林重予氏

文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「環太平洋の〈消滅に瀕した言語〉にかんする緊急調査研究」



北海道立北方民族博物館

Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1

(天都山・道立オホーツク公園内)

TEL 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889

<http://www.ohotoku26.or.jp/hoppohm/>



# セドナの箱

「セドナの箱」は当館友の会季刊誌 Arctic Circle (アークティック・サークル) に連載された大林太良初代館長のエッセイタイトルです。Arctic Circle 発行50号を記念し、このエッセイを道標にしながら、北に暮らす人びとの独特な精神世界へご案内します。

シャマニズムの語根となったシャマンが実はツングース語から由来しているように、北方ユーラシアと中央アジアはまさに世界におけるシャマニズムの本場であった。(4号 シャマンと靈魂より)

世界の採集狩猟民のなかでも北太平洋地域の人たちは、他とはちがう大きな特徴をもっている。それは儀礼用の仮面を作ったり使用したりすることである。(13号 北太平洋は仮面の宝庫より)

シベリアのなかではアムール河の中・下流と沿海州の地域は、いささか変わった地域である。シベリアの他の地域に共通の北方的な狩猟民的な文化が広がっている一方で、それとともに中国南部や東南アジアの農耕民の伝承や習俗を思い出させる要素がいろいろ見いだされるからだ。(17号 北の歌垣より)



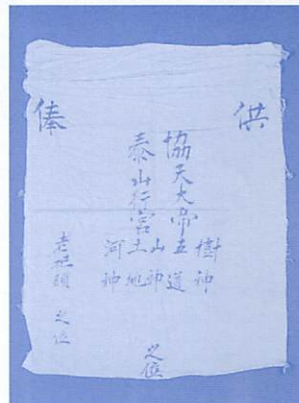
石彫製刻「セドナとアザラシ」  
イヌイト  
1984年 Isa Aupalukta 作

エッセイタイトルについて  
セドナはイヌイトの民話にでてくる海獣を支配する女神の名前です。  
北極海の奥底には、セドナが守るお話が  
つまった箱が沈んでおり、この箱からエッセイが、アザラシやクジラのように浮かびあがってくる様子をイメージして名付けました。

◀表  
ちぎり絵: 北村真由美  
(呉人恵, T.Yuエルモリスカヤ編  
『コリヤーク民話: ワタリガラス』より)



ウリチのシャマン  
1958年 A. V. スモリヤーク撮影



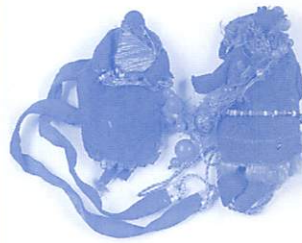
ミオ(お札の一種) / ナーナイ



シャマンの木偶 / ナーナイ  
2000年 A. P. ドンカーン作



腰痛のお守り / ウイルタ



お守り / コリヤーク



木製ワタリガラス像 / コリヤーク  
1999年収集



シャマン用木製仮面 / イヌイト  
19世紀後期



シルクスクリーン  
「ワタリガラスとカエル」  
ツィムシャン  
1997年 Jack Hudson 作



サンダーバード形仮面  
クワキウトル

## 企画展開催期間中のもよおし

講演会  
『シベリアの狼蟹合戦 広がる民話の世界』  
日時: 2月14日[土] 午後1時30分-3時  
会場: 当館講堂 聴講: 無料 ※道民カレッジ連携講座  
講師: 斎藤君子氏(ロシア民話研究者)

シベリアに暮らす人びとの民話には取り巻く自然環境や、様々な霊の存在を信じる心などが、色濃く反映されています。シベリアの狼蟹合戦や、北方に広くあるワタリガラスが登場するお話などにもふれ、シベリア民話が身近に感じられる内容でお話いただきます。

講習会  
『作って歩こう・かんじき体験』※道民カレッジ連携講座  
3月14日[日] 午前10時-11時30分

博物館クラブ  
『宝物をいれる箱をつくろう』  
2月28日[土] 午前10時-11時30分  
『親と子のかんじき歩き体験』  
3月13日[土] 午前10時-11時30分

※参加を希望される方は電話でお申し込み下さい。



・女満別空港から約17km JR網走駅から約5km  
・網走バス天都山線で約15分、「北方民族博物館前」下車すぐ

**北海道立北方民族博物館**  
Hokkaido Museum of Northern Peoples  
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1  
(天都山・道立オホーツク公園内)  
TEL 0152-45-3888 FAX 0152-45-3889  
http://www.ohotoku26.or.jp/hoppohm/